

# 国際協力

No.38  
2014 新春号  
JICA 駒ヶ根  
2014.1.1

## Contents

新春対談 .....	1	帰国ボランティア紹介 .....	5
イベント・レポート .....	2, 3	長野県出身新ボランティア .....	6
青年研修 .....	4	JICAボランティア秋募集終了 .....	6
協力隊員現地レポート .....	5	インフォメーション(派遣前訓練公開講座) .....	6

## 新春号特集 地域とともに35年

テーマ：駒ヶ根市制60周年・駒ヶ根訓練所開設35周年を迎えて～

## 新春 対談

### 駒ヶ根市 杉本幸治市長と 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 仁田知樹所長による

**所長**：新年あけましておめでとうございます。今年  
は駒ヶ根市が市制60周年を迎えられること、お祝  
い申し上げます。また、駒ヶ根青年海外協力隊訓練  
所(以下訓練所)が開所して35年の節目の年でも  
ありますが、ここに至るまで、駒ヶ根市には多大なる  
協力をいただき、地域の皆さんに常に支えていただい  
てきました。歴代の所長らに代わって心より感謝を  
申し上げます。



**市長**：あけましておめでとうございます。早いもの  
でもう35年経ったんですね。駒ヶ根には訓練所があ  
ることを契機として国際交流をしてきました。「駒ヶ  
根協力隊を育てる会」や「ネパール交流市民の会」  
をはじめとして、市民レベルで、また企業も含め、  
国際交流・貢献を発信していく動きが高まってきた  
と思います。例えば、周辺の4市町村が関わる「みな  
こいワールドフェスタ」も昨年で20周年を迎えまし  
たが、毎年訓練中のボランティア候補生やボラン  
ティアのOB・OGにも参加していただいています。また、  
地元の小・中学校と候補生の交流も続けていて、赤  
穂南小学校では、校内に国際協力についての情報セ  
ンターをつくったりしてきました。

**所長**：私の息子も赤穂南小学校ですが、情報セ  
ンターを見て、その内容の充実さには驚きました。

**市長**：児童たち自らが、「世界中を幸せに、笑顔に  
したい」と夢を語ってくれます。駒ヶ根市民の中にも、  
ボランティアに名乗りを上げた人が大勢おり、帰国  
後、地元市内で活躍されています。また、市として  
も、「訓練所のあるまち」ということで、市職員を5代  
にわたってネパールへボランティア調整員として派  
遣しました。平成6年からは、途中現地の政変による  
混乱で中止したことがあったものの、毎年中学生  
のネパールへの派遣事業を実施しています。このよ  
うな縁で、平成13年にネパールのポカラ市との間  
で国際協力友好都市協定を結びました。外務省の  
草の根無償資金協力プログラムを通じ平成24年  
にポカラ市に母子保健病院ができたのも、市民が  
長きにわたって国際協力活動をしてきたことへの  
評価ではないかと思えます。

#### JICAボランティアは日本の大使～大使村構想

**所長**：さて、このほど駒ヶ根市が策定された第4  
次総合計画の中で、国際交流という視点で訓練所  
に関しても触れられています。

**市長**：これは私の夢でもあるのですが、「大使村  
構想」というものです。私は、JICAボランティアも  
日本の草の根大使だと思っています。そんな“大使”  
たちが帰国後に集まる場を、訓練所近辺の中央ア  
ルプス山麓につくりたい。JICAボランティアの活躍  
の様子や様々な国の食や文化などを発信してもら  
いたい。養命酒工場近辺を健康ゾーンとするなら  
ば、訓練所付近は国際交流ゾーンです。始めは小  
さい規模でも、リニア新幹線が開通すると東京-駒  
ヶ根間は約1時間半、名古屋-駒ヶ根間は約1時間  
で結ばれますから、人もたくさん集まるでしょう。  
こんなことができるのは、「協力隊訓練所があるま  
ち」駒ヶ根ならではの、だと思います。



**所長**：私もその夢に乗り、精一杯協力させてい  
たきたいです。市と訓練所、両方に有意義なことだ  
と思います。「JICAボランティアは草の根大使」と  
おっしゃってくださいましたが、赴任前のボラン  
ティアに「我がまちの親善大使に任命します」と任  
命状を授けてくださる自治体もあるようです。

**市長**：駒ヶ根市でもぜひ、そのような任命を  
したいですね。子供たちには、活躍するJICAボ  
ランティアの姿を見せてあげたいと常々思っています。

#### 2015年の青年海外協力隊50周年に向けて

**所長**：来年は青年海外協力隊事業が発足して  
50周年を迎える記念の年です。全JICAを挙げて  
記念行事を行う予定ですが、それに関してもご  
協力いただければと思っています。

**市長**：駒ヶ根で訓練を受けてこれまで協力  
隊として開発途上国へ行かれたあと、再び駒ヶ  
根に帰ってきて住んでいる方もかなりいらっ  
しゃいます。そういった方々とも協力し合っ  
て、50周年を契機に今後もこの「訓練所があ  
るまち」を盛り上げていきたいですね。

予告：2/23(日)に「駒ヶ根市制60周年、駒ヶ根訓練所設立35周年記念セミナー」開催！駒ヶ根市やNGO(国際協力団体)協力隊との連携についてのパネルディスカッションや、駒ヶ根訓練所で訓練を受けて現在NGOで活躍している青年海外協力隊のOB・OGによる講座を実施します。

# イベント・レポート

## Event Report



10/20~  
10/27

### 第20回 みなこいワールドフェスタ 終了!

今年で記念すべき第20回を迎えたみなこいワールドフェスタ。

8日間にわたって、駒ヶ根訓練所や駒ヶ根市内で様々なイベントが盛大に開催されました。

初日の「世界の料理教室」(10月20日)はマラウイ編。講師は現在駒ヶ根訓練所で訓練スタッフとして勤務、自身もマラウイでの青年海外協力隊の隊員であった、竹中成行氏。約30人の参加者は、マラウイという国の存在も知らなかった方も、野菜を中心としたマラウイ料理に興味深々。国の紹介や、歌、踊りありの楽しい時間となりました。

10月26日は、「やった!自転車世界一周した男が語る夢の叶え方」と題し、会社から4年3カ月間の有給休暇をもらって自転車で世界一周された坂本達氏の記念講演会。夢を持ち続けることの大切さ、素晴らしさ、また、これからボランティアとして海外へ赴任する候補者へのアドバイス等を語られ、JICAボランティア候補者を含めた150名以上の聴衆は、優しくも力強い坂本さんの語りに聞き入っていました。

最終日の10月27日は恒例の「こまがね国際広場」。60人を超えるJICAボランティア候補者のみなさんもお手伝いに駆けつけ、ワールドステージの司会を始め、各ブースで大活躍。今年もワールド屋台、スタンプラリー等々、様々な国際的なブースが出演。ニジェールやバングラデシュなど、全国から多くの青年海外協力隊OB・OGたちが集まり、たくさん市民と交流し、大賑わいのうちに幕を閉じました。



地球の料理教室



坂本達氏の講演会



こまがね国際広場

12/1

### 初めての国際交流

～ アフリカ・中米からこんにちは。  
人生初の雪、そして染物体験～

50名の参加者を迎え、初の試みとなるJICA技術研修員(アフリカ・中米出身者)と駒ヶ根市民の交流イベントを行いました。

午前中は、ロープウェイに乗り込み千畳敷カールへ。人生で初となる雪を体験し、寒さを忘れ、子供の様にはしゃぐ研修員の姿が見られました。

午後は、シルクミュージアムで、昼食と藍染体験を通じ、市民との交流を楽しみました。自分で染めた布を嬉しそうに掲げ、「国に持って帰ってみんなに自慢するんだ」と語ったときの笑顔がとても印象的。それを見た参加市民も思わず顔がほころんでおり、とてもいい交流になったと確信した瞬間でした。

一日を通して日本文化にどっぷりとつかり、日本人と深く交流したことで、また日本の大ファンが増えた、そんなイベントとなりました。



11/9~  
11/10

### 「みなこい地球市民協力隊 体験入隊」(中学生体験入隊)

毎年恒例の、駒ヶ根協力隊を育てる会主催による中学生体験入隊が、今年も11/9日-10日に駒ヶ根訓練所で行われ、駒ヶ根市をはじめ県内の各地から中学生39名が参加しました。

入所式では緊張していた中学生たちでしたが、その後のアイスブレイキングからは、自発的にお互い握手をしながら自己紹介をするなどリラックス。ネパール語、スペイン語などの語学体験、ボランティア候補者との交流、夜は自分たちでテントを張って寝袋で寝泊まり等々。テント内では遅くまでおしゃべりが止まりませんでした。二日目も朝の集い、ウォーキング、国際理解ワークショップなど盛りだくさんで、本番の訓練さながらの内容でした。

参加した中学生の皆さんは、他校の友達もでき、楽しい時間を過ごすことができた上、青年海外協力隊のこと、世界のこと、途上国の現状を学び、海外で活躍することを将来の夢として描くことができたようです。

この中から、青年海外協力隊員となって訓練所に戻って来てくれる生徒さんが必ずいると期待しています!



# イベント・レポート

## Event Report

10/20

### 高校生参加型プログラム

「高校生参加型プログラム～国際協力の世界への招待状～」は主に北信地域の高校生36名が参加し行われました。今回は長野市発のバスの車内からプログラムがスタート！ 到着した駒ヶ根訓練所では、異文化理解ワークショップのほか、訓練中の青年海外協力隊候補者と一緒にエスニックランチをとり、それぞれが、ハングラデシユ、ブルキナファソに派遣されるという設定で、語学訓練や派遣先の国の事情説明も受けました。

高校生にとって、このプログラムはどんな体験だったのでしょうか？ 参加した方からは、「自分と同じ年頃の高校生がこんなことを考えていると知って刺激になった」「今度は自分から発信できるような人になりたい」と、駒ヶ根訓練所でのインパクトは大きかったようです。

未来の青年海外協力隊は、とっても真摯でキラキラしていました。



11/17

### 「おお！地球人ワールドフェスタIN長野2013」

長野市で開催された「おお！地球人ワールドフェスタIN長野2013」。今年で2回目になる地域イベントに、JICA駒ヶ根と長野県OB会との共同ブースを初出展しました。ブースでは青年海外協力隊OG井出教子さん(ポリビア、環境教育)によるポリビア紹介パネルや民芸品の展示が、別室では富井久美子さん(タイ、作業療法士)によるタイ式ヨガ「ルーシーダットン」体験講座が行われました。タイで作業療法士として活動された富井さんは、ルーシーダットンのインストラクターの資格を生かし、20分ほどにまとめた体験編で参加者の皆さんに指導をされていました。

そのほかOBスタッフが青年海外協力隊への参加希望者の個別相談に親身になって応じる姿。ブースを訪れる方の中には、「若い頃協力隊に憧れていた。若い時は行けなかったけれど、いつかシニア海外ボランティアで行きたい…!」と熱く語ってくださる方もいらっしゃいました。

また、JICA駒ヶ根からは、民族衣装を貸出し、来場者が試着し記念撮影もされました。

北信・東信地区の元青年海外協力隊の皆さん、ご協力ありがとうございました！



お知らせ

## 世界で学び、日本でシェア！

～JICAボランティアと教師海外研修参加者による報告会～

日時:松本市あがたの森文化会館 IT教室  
場所:2月8日(土) PM1:00-4:20

JICA駒ヶ根が定期的で開催している、JICAボランティアの帰国報告会。今回は、教師海外研修(本年度はブータン)の長野県からの参加者による帰国後の授業実践の報告会、との二部構成です。

教師海外研修の報告会は県内初。将来参加を希望する教員の方々には、経験者の生の声が聴けるチャンスです。教師海外研修って?ブータン研修で学んだことをどう生徒たちに伝えてきたの?『幸せの国』といわれるブータンだが、日本の生徒たちの反応は?等々、興味深い内容になりそうです。発表者は、本誌でも紹介してきました、長野県若槻養護学校の丸山妙子教諭と安曇野市立豊科南中学の松島千尋教諭。ブータンで活動された元青年海外協力隊の榎本智恵子さんも特別ゲストとして参加予定です。

また、JICAボランティア(青年海外協力隊・シニア海外ボランティア)の活動報告は、2年間の活動を終えたボランティアによる報告です。今後、皆さんの学校や地域に、国際

協力出前講座の講師として、話をしに来てくれる人材が見つかるかもしれません。将来JICAボランティアをめざしている方も、ぜひ足をお運びください!

JICAボランティア帰国報告者(予定)

- 小松 洋さん  
(H23年度1次隊 派遣国:ジンバブエ、職種:体育)
- 郷津智美さん  
(H23年度3次隊 派遣国:バヌアツ、職種:小学校教諭)
- 城 里史さん  
(H22年度2次隊 派遣国:セネガル、職種:村落開発普及員)

詳細は後日、JICA駒ヶ根のホームページ等でお知らせいたします。どなたでもご聴講いただけます。参加費は無料ですが、お申し込みが必要です。

お問い合わせ、お申し込みは、  
Tel 0265-82-6151 jicakjv-kouhou@jica.go.jp  
担当:茂木、伊東まで。

# 青年研修

## ～ようこそ日本へ、信州へ！～

### 青年研修とは・・・

青年研修事業は、アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中東などの開発途上国の青年層を対象に、それぞれの国で必要とされている分野における日本の経験、技術を理解する基礎的な研修を行い、将来の国づくりを担う人材の育成に協力する事業です。JICA駒ヶ根では信州発国際協力2013No.37で報告した7月の「スリランカ／保健医療行政コース」に加え、下記の3つの国からの青年研修事業を実施しました。

### From マレーシア



#### 伊南地域を中心とした「地域における中小企業振興」 研修実施団体：社団法人駒ヶ根青年会議所

マレーシアの政府機関で働く公務員や政府系金融機関職員など15名の研修員が参加。9月18日からの18日間で、主に駒ヶ根市に滞在し、長野県や駒ヶ根市、松川町など自治体の中小企業支援政策、JETRO長野事務所、日本政策金融公庫からの講義、そして駒ヶ根商工会議所や駒ヶ根青年会議所が実施している中小企業支援事業を学びました。また、伊南地域の中小企業も訪問し、中小企業の実例について熱心に学んでいました。

また、駒ヶ根市内の一般家庭での1泊2日のホームステイも体験し、南信地域の暮らしについても体験しました。

最終日、JICA駒ヶ根での、帰国後の活動計画発表会では、「日本とは環境が異なるが、長野県で学んだことをそれぞれの所属する機関の今後の政策に反映していきたい」と抱負を語ってくれました。



計画発表会での様子

### From カンボジア



#### 中信地域を中心とした「地域における中小企業振興」 研修実施団体：(特活)SCOP

カンボジアの政府機関職員、企業連合団体や女性起業家協会、若手起業家協会の役員など、カンボジアにおける中小企業振興政策に携わっている15名の研修員が参加。主に松本市に滞在し、10月14日からの18日間、日本や長野県の中小企業支援政策、信州大学における産官学の連携、長野県の製造業を中心とした中小企業振興を学びました。

また、期間中に実施していた諏訪圏工業メッセや坂城町のさかきテクノセンターも訪問し、中小企業の実例について学びました。週末には松本市の松本城、長野市の善光寺を訪問し、観

光県長野の観光リソースも体験しました。

最終日、JICA駒ヶ根での帰国後の活動計画発表会では、「中小企業とそれを取り巻く行政や大学などの教育・研究機関と一緒に、中小企業能力強化に取り組むことが重要。」「数年後、プノンペン郊外に中小企業特区建設を計画したい。」などそれぞれの分野での抱負を語ってくれました。



閉講式で修了証を手にする研修生ら

### From インドネシア



#### 佐久地域を中心とした「地域保健医療」 研修実施団体：一般財団法人農村保健研修センター

11月7日からの18日間、青年研修「インドネシア／地域保健医療実施管理コース」を実施。インドネシアの各地域から医師、看護師、助産師、医療分野の行政職員など14名の研修員が参加しました。

研修期間中は佐久市に滞在し、日本においても地域医療の先駆けとして知られる佐久総合病院や佐久地域の医療施設、介護施設を訪問し、保健医療の実情や健康管理の取り組みと実績について熱心に学んでいました。

また、長野県庁を訪問し、健康長寿課長の講義を受講。長寿

日本一の長野県の地域医療や医療行政についても学びました。

最終日の帰国後の活動計画発表会では、3つに分けたグループでそれぞれが選択した課題への取組みを発表。「長野県のように地域の保健ボランティアが自分たちの村で役割を果たせるような仕組みづくりを行い、我々医療従事者はそれを支えるような体制をつくってほしい」と抱負を力強く語りました。



佐久穂町長を表敬訪問する研修員

協力隊員  
現地レポート  
from ザンビア

中川敬介さん

平成24年度1次隊  
職種：陸上競技



ザンビアで、陸上競技の普及とコースチームの指導を行っています。赴任する前はどんなすごいランナーと出会うのかと、ワクワクしてザンビアに降り立ちましたが、実際に陸上競技場に行ってみると、ほとんど走っている人はおらず競技場は閑散としていました。この国では陸上競技をする人はごく一部の人だけで、レベルもあまり高くなく、また日本のように走ることを楽しむという文化がないことを知りました。

まずはじめにしたことは、コースチームの立ち上げでした。陸上競技場周辺の学校の先生に協力を依頼して選手を連れてきてもらい、練習を始めました。当初は強い選手を育てたいという気持ちが強く、「競技」に重点を置いて指導をしていました。しかし、なかなか選手が集まらず、練習に来る選手も次第に減っていき、一人や二人で練習をする日々が続きました。そこで、まずは走る楽しさを子どもたちに伝えることから始め

ようと「普及」に重点を置くようにしました。学校訪問をして活動の紹介をしたり、ザンビアで初めての駅伝大会を開催したりしました。

こうした活動が実を結び、陸上のチームを作るまで成長しました。私が集めたのは才能のある選手ではなく、継続して練習に来る選手、走ることが好きな選手たち。それが今では国内で注目されるチームの一つにまで成長しました。現在は、今年の8月に中国で行われるユース



ルサカ州の大会で総合優勝!

オリンピックの出場に向けて練習に励んでいます。東京オリンピックの開催も決まり、今のチームから東京オリンピックに出場する選手が育ってくれることを願っています。



選手権出場。中川さんと選手たち

## 帰国したJICAボランティアの方々

2年間の活動  
お疲れ様でした!!



青年海外協力隊(H23年度1次隊 2011年6月~2013年6月)

井出 教子 さん(佐久市)

●派遣国：ボリビア  
●職種：環境教育

ボリビア第三の都市コチャバンバは、一年を通じて春のような温暖な気候で、街中に色とりどりの花が咲き乱れるとても美しい所です。

しかしその一方で、近年は人口増加や近代化によりゴミ問題が深刻化しており、私も市内のあちこちで川や道端に大量の廃棄物が放置されているのをよく目にしました。私のボランティアとしての活動は、このような問題を解決すべく、先生方や生徒たちに授業や研修会を実施することでした。

人々の意識を変えるのは簡単なことではありませんでしたが、「ノリコ!」と元気に呼びかけてくれる子どもたちの笑顔に励まされながら、小さな一歩が将来大きな変化につながっていくことを信じて活動に取り組んできました。



青年海外協力隊(H22年度3次隊 2011年1月~2013年1月)

榎本 智恵子 さん(長野市)

●派遣国：ブータン王国  
●職種：青少年活動

ブータンの空の玄関口パロの町から車で30分。ヒマラヤトレッキングの出発点ドゥグル村にあるブータン唯一のろう学校で、耳の聞こえない子どもたちに美術を教えました。

教科書や道具が不足する中で、目を輝かせながら制作する子どもたち。世界で一番幸せな国ブータンで、世界一幸せな教師生活を送ることが出来ました。

写真は、活動の最後に学校で行った子どもたちの作品展での一コマ。2年間、一緒に成長した生徒たちと。ブータンは障害を持った子どもたちも、力強く生きる国です。



## 家族連絡会 ~ご家族の不安を取り除くために~

11月10日に長野県JICAボランティア家族連絡会が駒ヶ根訓練所で開催され、派遣中のボランティアのご家族が日々感じている想いを共有していただきました。

ご家族が最も関心を持たれていた帰国後の進路については、高山進路相談カウンセラーから「国際協力以外にも目を向けて幅広く就職活動をして欲しい」というお話しや、元青年海外協力隊で、現在飯島町役場勤務の唐澤国洋さんから、就職活動の体験を話してもらいました。

午後は派遣地域別に分かれて、ご家族とボランティアOB・OGによるグループ懇談会が行われました。ざっくばらんなお話も出て、終始和やかな雰囲気で見られました。来年度も多くのご家族に足をお運びいただければと思います。



平成25年度第3次隊

青年海外協力隊

長野県出身新ボランティア

行ってきます!!



しみずよう たろう  
清水洋太郎 さん (箕輪町)



派遣国：ジャマイカ  
職 種：コミュニティ開発

派遣先は、カリブ海に浮かぶジャマイカ。ちょうど長野県より一回り小さい島の島国です。最近では世界最速の男スプリンター・ポルト選手の出生地としても有名ですが、美しいビーチや自然があふれる魅力的な国です。私は首都近くの町で、全国の地域開発活動を支援する政府系機関にて働く予定です。厳しい環境の中でも笑顔を絶やさないジャマイカの人々と共に、希望あふれる未来づくりのお手伝いが少しでもできれば、と思います。



さかい たかし  
酒井 崇 さん (長野市)



派遣国：モンゴル  
職 種：PC インストラクター

私がJICAボランティア活動に参加しようと思った理由は、今まで自分が培ってきたITの知識や技術を、現地の人々に教え伝えることで、多くの人々にITの"楽しさ"や"危うさ"を知ってもらい、ITをどう活用したら自身の生活が豊かになるのかを考えてもらうきっかけ(道しるべ)を作りたい、と考えたからです。自身の活動以外にも、現地の人々と積極的にコミュニケーションをとっていき、IT普及活動(地域勉強会など)も行いたいと思っています。

●●●● JICAボランティア秋募集、終了しました! ●●●●

平成25年度 秋募集説明会への来場者：103名(うち、青年海外協力隊志望者68名、シニア海外ボランティア志望者35名)

JICAボランティア秋募集説明会が、長野県内の6会場(長野市・松本市・上田市・佐久市・駒ヶ根市・飯田市)で行われ、JICAボランティアへの参加を意欲的に考えておられる方が集まりました。

10月19日に駒ヶ根訓練所で行われた、派遣前の訓練を疑似体験できる一日体験入隊では、現在フィジーで活動中の青年海外協力隊員(職種：環境教育)、高野光輝さんとスカイプを使って現地から生の声を伝えました。また訓練中のJICAボランティア候補者との昼食、異文化体験ワークショップ、ネイティブの語学講師による語学訓練体験なども実施。次回は春募集の時期(4月頃)に開催予定です。

JICAボランティアに興味のある方には年間を通じ、疑問や質問にお応えいたします。お気軽にお問い合わせください。

Information

JICA駒ヶ根  
インフォメーション

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

▶ JICA事業概要

1月22日(水) 14:10~15:00 定員：10名  
講師：青年海外協力隊事務局 中南米課 課長 富安誠司  
内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要

▶ JICAボランティア事業の理念と目標

1月23日(木) 15:10~17:00 定員：10名  
講師：青年海外協力隊事務局 局長 小川登志夫  
内容：JICAボランティア事業の概要及びその活動

▶ 国際関係と日本の国際協力

2月12日(水) 15:10~17:00 定員：10名  
講師：廣野良吉氏 (成蹊大学 名誉教授)  
内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する

▶ 世界の宗教理解

2月13日(木) 14:10~17:00 定員：10名  
講師：大澤絢子氏 (東京工業大学大学院 社会学研究科)  
内容：世界の宗教についての理解を深める

▶ 地球のステージ (コンサート)

2月18日(火) 19:00~20:50 定員：50名  
講師：桑山紀彦氏 (医師・NPO法人地球のステージ 代表者)  
内容：途上国で巡り会った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域での子供たちの明るくたくましい姿などを写し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する

▶ 異文化適応概論

2月19日(水) 15:10~17:00 定員：10名  
講師：関谷雄一氏 (東京大学大学院 総合文化研究科 准教授)  
内容：文化とは何か、理解とは何か、カルチャーショックとは何か、適応するとはどういうことかなどの異文化に入っていくにあたっての心構え

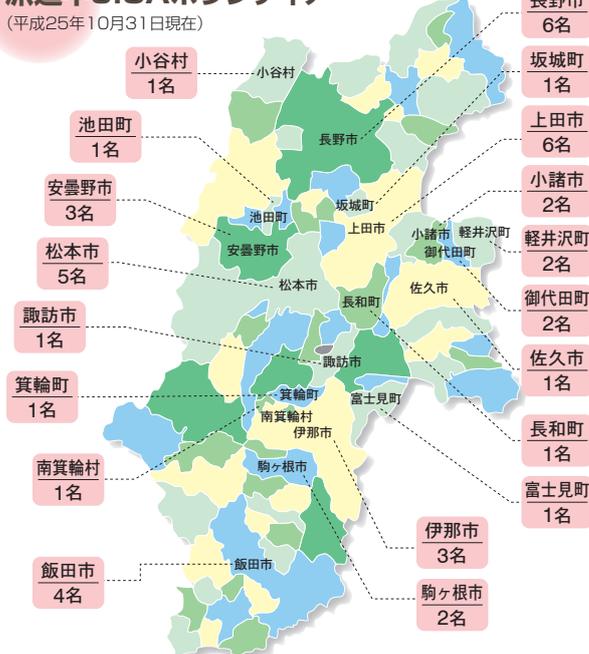
※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。

ホームページ <http://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべてJICA駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

派遣中JICAボランティア

(平成25年10月31日現在)



長野県出身者 JICAボランティア派遣実績

平成25年10月31日現在

①青年海外協力隊員	③日系社会青年ボランティア
派遣中 45名	派遣中 1名
累計 885名	累計 17名
②シニア海外ボランティア	④日系社会シニアボランティア
派遣中 9名	派遣中 1名
累計 68名	累計 3名

発行 独立行政法人 国際協力機構  
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336  
E-mail [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp)  
<http://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!  
<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン  
☑ 配信希望の方は [jicakjv@jica.go.jp](mailto:jicakjv@jica.go.jp)  
までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。